

全国保育士会

「人権擁護のためのセルフチェックリスト」を
用いた保育の振り返り

— 報 告 —



令和5年4月

社会福祉法人全国社会福祉協議会

全国保育士会

「人権擁護のためのセルフチェックリスト」を用いた保育の振り返り

本取り組みの背景と趣旨

- 令和 4 年 12 月、静岡県保育所や富山県認定こども園で園児に対して虐待が行われていたことを受け、国は「保育所等における虐待等の不適切な保育への対応等に関する実態調査」を実施しました。
- 全国保育士会の会議において、その調査についての意見交換をしていたところ、「うちの園は、0（ゼロ）件と回答した」、「職員に聞いてみても何が不適切な保育に該当するのかわからないから件数を把握できない」、「全職員に振り返ってもらったところ 200 件以上出てきた」など、保育所によってその回答に大きなばらつきが生じていることがわかりました。そして、多くの保育所等から、どのように回答してよいか困っている、どのような行為を数えたらよいかかわからない、といった声も寄せられました。
- そのひとつの原因として、それが具体的にはどの程度のことを指すのか、求められる回答の範囲が明確ではなかったことがあげられると思います。
- 「不適切な保育」といわれた時、児童福祉法に定める「虐待」に該当すると考えられる行為を思い浮かべる保育者もいれば、日常的な保育の振り返りのなかで子どもにとってよくないかかわりであった行為を思い浮かべる保育者もいて、その幅、ばらつきが大きかったのではないかと考えました。もちろん、その両者（とその間にある行為）を含めて「不適切な保育」ととらえる保育者もいたことでしょう。
- こうした状況に対して、子どもの豊かな育ちを支える専門職である保育士・保育教諭としてあらためて今回の国の調査を好機ととらえ、よりよい保育を追求し、また、保育者自身の質の向上を図る観点からも限定的な取り組みではありましたが、「人権擁護のためのセルフチェックリスト」（全国保育士会）を用いた保育の振り返りを行いました。
- 今後、各園においてこうした日々の保育の振り返りがこれまで以上に行われ、風通しがよい組織風土のなかで保育者同士がコミュニケーションを図り、お互いに研鑽を積んでいかれることを期待するとともに、保育の現場に携わるみなさまに寄り添う全国保育士会でありたいと考えています。

振り返りの方法

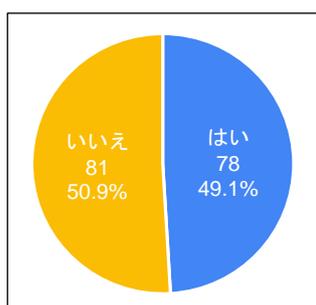
- 対象・・・全国保育士会常任委員が所属する園の保育者
※ 常任委員は、各ブロックの代表として選出された7名と正副会長4名の11名
- 期間・・・令和5年2月2日（木）～2月17日（金）
- 内容・・・① 令和4年10月～12月の期間で、自分自身の保育を振り返って、「良くないと考えられるかかわり」を行ったことがあるか
② そのかかわりはセルフチェックリストの5つのカテゴリーのどれにあてはまるか
③ それは具体的にどのようなかかわりだったか
④ そのかかわりをした後、改善に向けてどのような対応を行ったか
⑤ その対応の結果、自らの保育にどのような変化が起こったか
⑥ 保育現場で「良くないと考えられるかかわり」を減らしていくためには何が必要か
- 方法・・・全国保育士会常任委員より、所属園の保育者に今回の振り返りの主旨を伝え、各保育者がGoogleフォームに回答を行った。
複数回「良くないと考えられるかかわり」を行った場合は、複数回の回答を依頼した。
今回の振り返りの主旨に鑑みて、回答者の氏名等、個人や所属につながるものは一切回答してもらっていない。

結果①

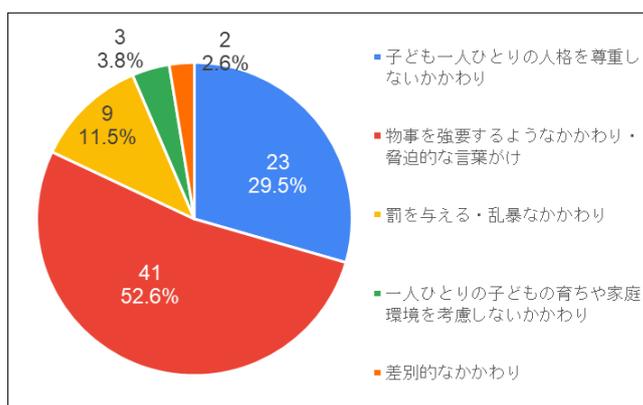
- 振り返りを依頼した結果、常任委員（11名）が所属する園の保育者から計159件の回答があった。

※ 期間中に「良くないと考えられるかかわり」が複数ある場合は複数回回答いただいているため、159名からの回答ということではない。

- 159件の回答のうち、令和4年10月～12月の期間で「『良くないと考えられるかかわり』を行ったことがある」と回答したのは78件（49.1%）だった。



- 「良くないと考えられるかかわり」を行ったことがあると回答した78件の5つのカテゴリーごとの割合は、下図のとおりである。「物事を強要するようなかかわり・脅迫的な言葉がけ」が半数以上を占め、次いで「子ども一人ひとりの人格を尊重しないかかわり」が多かった。



結果②(「良くないと考えられるかかわり」の具体的な内容

- 「良くないと考えられるかかわり」として回答された 78 件の具体的な内容は下表のとおりである。

※ 類似の内容が集まるように事務局にて整理。内容は回答原文のまま記載。

<p>物事を強要する ようなかかわり・ 脅迫的な言葉が け</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ サンタさんが来ないかもと不安を与えた。 ・ 節分前に「○○しないと鬼が来るかも」と言った。 ・ 偏食の強い園児に対し、「食べなきゃ鬼が来るよ」と声を掛けたことがある。 ・ クリスマスの時期になると、「サンタさんこないよ」と言ったり、節分の時期には「鬼くるよ」と言って言葉かけをしていた。 ・ 「帽子をかぶらないと、お外に行けないよ」と言ってしまう。 ・ 「○○しないと○○できないよ」という言葉がけをしてしまった。 ・ 部屋で走りまわっている子に鬼さんがお山から見てるよーと言う。 ・ 「これをやってからじゃないと次のことができないよ。」と声を掛けた。 ・ 集合を守らず遊んでいる子や片付けをしない子に、「お外に連れて行かない！」など。 ・ 園行事が始まる際に、行動を促してもなかなか動かなかったので、「早く行かないと始まっちゃうよ」「見れなくなっちゃうよ」と少し強要するような言葉がけをしてしまった。 ・ 野菜も食べれないとフルーツあげれないよ ・ 2歳児のトイレトレーニング中の男児に、散歩へ行く前は、トイレに行っからいきましょうと伝えるのが、「ない」と答えた。散歩の途中で行きたくなくなったり、失敗してはかわいそうだと思って、何度も行くように伝えた。 ・ 年長のクラスで、行事への取り組みで、排泄の頻度が多い子どもに、活動中にトイレに行かなくてもいいように活動前にトイレに行くよう促した。その子どもは尿意や便意がないと言っていたがその前回の活動で排泄が間に合わなかったことがあり、また日頃の活動中にトイレに行くことが目立つので、トイレに行くように言いその子どもはトイレに行った。尿意や便意がない子どもに対して行くまで促したことが強要にあたるかもしれないと考えた。 ・ 「出ないから、トイレに行かない」という2歳児に対して、出なくてもいいから皆と同じ時間にトイレに行こうと促した。 ・ トイレに行くよう促す ・ 自分でトイレに行ける子が、長い間行っていない時に、トイレに行くように言った。 ・ 尿意が言える子どもにトイレ行くよう促した。 ・ トイレに行かずに漏らしてしまう子なので、声掛けで、言った方がいいと
---	---

促してしまった。

- 遊びに夢中でトイレに行こうとしない2歳児の子ども(オムツにもたくさん出ている状態)に対し、トイレに行き、オムツを替えるよう促した。
- 寝れなくて落ち着かない子どもの布団を移動させた
- 午睡時に眠れず話をしたり、寝ている人の睡眠を妨害するような行為があった際に、何度か注意しても続いた場合に布団の場所を変えた。
- なかなか寝ない子どもの布団を他の子どもと離して敷いた。
- (嫌いなものだけど)「一口だけ頑張って食べてみて」と強要してしまった。
- 子どもが苦手な食べ物があった。一度首を振ったため、別のものを食べられるようにしたが、一口食べて欲しい思いもあり、何度か食べてみる?と促した。最終的に食べずに終わったが、その子からしたら一度嫌と言ったものを促すこと自体嫌だっただろうなと思ひ反省した。
- 園庭遊びから入室する際、なかなか遊びを切り上げられない子に対して抱き上げて遊びを終わらせてしまった。
- 物事の切り替えが出来ない子に強制的に終わらせた
- クラス全員での活動の後、話を聞かずに走り回り、お面を投げている子に対して大きい声で注意をしてしまった。
- 子どもが室内で走っていた時に「ダメ!」と大声で言ってしまった。
- 自分がイライラしてしまって「もう!」と、強い口調で言ってしまった。
- 「靴下はいて、靴をはくよ」と、強制してしまう。
- 「早く来て!」「急いで!」と自分の都合でせかしてしまった。
- 並ぶ時に腕を掴んで誘導する
- 子どもに危険を感じた時にとっさに身体を引き寄せたり大きな声をだしたりした。
- 散歩中、道路を歩いている時に声をかけたが、気づいていない様子であったため、身体を少し押してしまった。
- 描画の時に、表現や描き方を誘導しすぎてしまった。
- 塗り絵をしたいと子供から言ってきた時に違うことが関わっていてちょっと待っててねと声をかけた
- クリスマスの話をしている時に、「ブラックサンタがいるって知ってる?」と言ってブラックサンタがどんな人なのか話した。
- 話を聞いてくれない子どもに「話を聞けないなら、赤ちゃん組に行く?」と言ってしまったことがある。
- 夕方、異年齢が混じって外遊びをしていて、時間になり「〇〇組さん、お片付けをしておへやにはいりましょう。」とこえをかけ、いつまでも遊んで部屋に入らない子にたいして、「みんなはいったよ。いつまでもしてるのは、

	<p>赤ちゃんぐみの部屋にいったね。」「お片付けできなかつたら、あしたはつかわないでね。」とこえかけをしてしまった。</p> <ul style="list-style-type: none"> • トイレに何回も行き過ぎる子どもに「また行くの？ほんとに出る？」といていた。 • 「ちゃんと練習してた？練習しないと、出来るようにならないよ」と言ってしまった。
<p>子ども一人ひとりの人格を尊重しないかわり</p>	<ul style="list-style-type: none"> ✓ つい、私の望む場所に来て欲しいと思い、腕を引いてしまった。 ✓ 支援が少し必要な子に対して手を引っ張りながら無理やり目的場所に誘導させる ✓ トイレから部屋に戻ったときに遊びに行こうとしてしまい、手を洗おうと誘いながら体の向きを変えてしまった。 ✓ おもちゃの取り合いになりそうだった為、こっちにもあるよと声掛けしながらだが、手を引っ張った。 ✓ 排便を子どもの意見を聞かずに促す ✓ 散歩や長い活動前に排泄を済ませるように伝えた ✓ 絵本を読んど持ってきたが、待ってと子どもを待たした。 ✓ 泣いている子どもに関わっている時に、遊ぼうと声をかけてきた子どもに対して、今は遊べないから後でねと伝えたが、その子どもが先に降園したことで、伝えたことを実行できなかった。 ✓ 話しかけられた際に「今〇〇ちゃんと話してるから待って」と言った。 ✓ 忙しいからあとでなど ✓ 忙しかったので声かけに少し待ってと答えた ✓ 子どもが保育者に話しかけた時に、「ちょっと待ってね」と言い、その後子どもの話を聞くことを忘れる。 ✓ 自分が保育の準備をしていたり、他の子どもの対応をしている時、ちょっと待ってね、あとでね。と待たせた。 ✓ 1人の子どもの対応をしているとき(話を聞いていたり、おもらし後の片付け中など)や保護者対応しているとき、給食準備をしているときなどに他の子どもに話かけられたとき「ちょっと待ってね」「あとでね」と答えることがあります。 子供の問いかけに、ちょっとまってねと言う ✓ 午睡の時、おしゃべりをするこの場所を変えた ✓ 濡れているオムツの交換を嫌がる子どもに、「着替え手伝うね」と伝え、着替えをした うんちが出ていたりおしっこが大量にでていのにパンツを替えるのを嫌がる子を抱っこし、トイレへ連れて行った。 ✓ 排泄の失敗での対応で、掃除道具を取りに行ったり、床を拭いたりしてい

	<p>る間、子どもをそのままの状態です待たせてしまった。</p> <ul style="list-style-type: none"> ✓ 折り紙を説明書通りに折るのではなくて、子どもが考えた折り方で「〇〇作りたい」といった言葉に対して、過去のその子どもの遊び方からくしゃくしゃにして大切に使わない可能性を考えてしまい、「何を折るのか決めてからだよ」と制限してしまった。 ✓ 毎日一緒に過ごしていて、一人ひとりの食べられる量、体調など把握しているので食事の量をこちらで調節したり、遊び食べを繰り返している子のスープを後で配膳したりした。 ✓ 床に寝転んで自慰行為をしている子に、「友だちに踏まれちゃうよ」「眠いの？」と行為を否定的に伝えた。 ✓ 発表会の衣装を着せて遊戯を踊る事があたりまえだと思っていた。乾燥肌の子は、サテン生地 of 衣装が肌と擦れて痒くなる事は考えていなかった。
<p>罰を与える・乱暴なかわり</p>	<ul style="list-style-type: none"> ◇ 子どもの手を引っ張る ◇ 子どもの腕を引っ張る ◇ 並ぶ時に、強引に腕を引っ張ってしまった。 ◇ 子どもが友だちを押し倒しそうな姿があった時に後ろから腕を引っ張り、止めてしまった ◇ 噛みつきや引っ掻きなどのトラブルが起こりそうになった時、子ども同士を離そうと思ひ咄嗟に子どもの腕を引っ張ってしまった。 ◇ 寝かしつける時になかなか寝ないために、ちょっとトントンに力がいってしまった。 ◇ 話を聞かないなら部屋から出てと言う ◇ 「片付けできないなら、お外に行かれないよ」と言ってしまった。 ◇ 午睡中、隣の子と話して落ち着いて寝れなかったので、布団の場所を移動した。
<p>一人ひとりの子どもの育ちや家庭環境を考慮しないかわり</p>	<ul style="list-style-type: none"> ■ 食事をこぼした時に「また こぼしちゃったの」と、言ってしまった。 ■ 自分でボタンを留めようとしていたのに、代わりに留めてしまった。 ■ 子どもが自分で荷物を持って行こうとしていたが、急いでいた為「先生が持つね」と取ってしまった。
<p>差別的なかわり</p>	<ul style="list-style-type: none"> ◆ 他の子は自分で眠りにつくことができることが多く、出来るだけ自己入眠を促しているため寝付きにくい子についてトントンしたり、近くについたりすることが多かった。 ◆ 男の子と女の子に分かれた行動に「男の子やけん、できんよね」と言葉をかけてしまった。

結果③(改善に向けた対応と自らの保育に起こった変化)

- 『『良くないと考えられるかかわり』を行ったことがある』と回答した 78 件について、「そのかかわりをした後、改善に向けてどのような対応を行ったか」、「その対応の結果、自らの保育にどのような変化が起こったか」を確認した。
- 「改善に向けて行った対応」、「自らの保育に起こった変化」として回答された具体的な内容は下表のとおり（概要／事務局にて整理）。
- 「良くないと考えられるかかわり」を行った後には、子ども一人ひとりの気持ちや思い、タイミングに寄り添うことを意識し、子どもの自主的な動きを大事にする保育がより行われるよう、自らの保育の改善を行い、変化が起こっていることが見てとれる。

<p>良くないと考えられるかかわりをした後、改善に向けて行った対応</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 「～しなきゃ～する」ではなく、「～したら～できるよ」と、その先が楽しみになる言葉掛けを心掛けるように努めた。 ・ 子どもが自発的に行動できるような言葉を選ぶようにした。 ・ 活動の準備を全員に声かけする際に「活動中にトイレに行かなくても良いように先にトイレに行くのもいいかもね」と子どもが自分でトイレに行った方がいいと思える声かけをするように心がけた。 ・ イライラした時は、自分自身一呼吸おいて、関わられるように落ち着かせた。 ・ 怪我をする事、危ない事をわかりやすい言葉で話した後、怪我なくて良かった事を伝え。抱きしめた。 ・ クラス内で気付きをつたえあった ・ 子どもとの関わりを増やして、一人一人の発達理解を深めた。
---------------------------------------	--

<p>改善に向けて行った対応の結果、自らの保育に起こった変化</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 言葉がけをする際に、否定的な言葉ではないか考えてから声かけをするようになった。 ・ 強制的に促すのではなく、まずは本人がなぜ動かないかを受け止め、本人が自ら動き出すような誘いかけをするように心掛けた。 ・ トイレに限らず子どもが見通しを持って自分で気づけるような声かけを心がけるようになった。 ・ 子どもが自分でしようとするまで待つように意識するようになった。 ・ どうすれば子どもに伝わるだろうとよく考えるようになった。
------------------------------------	---

結果④(「良くないと考えられるかかわり」を減らしていくために)

- 回答のあった 159 件すべてに対し、「保育現場で「良くないと考えられるかかわり」を減らしていくためには何が必要か」を確認した。
- 「良くないと考えられるかかわり」を減らしていくために必要なこととして回答された具体的な内容は下表のとおり（概要／事務局にて整理）。
- 保育者自身の気持ちや時間の余裕との回答が多く、保育者の数を増やす（配置基準の改善）が必要との回答が多かった。また、「子ども理解を深めること」「気軽に保育者同士の伝え合える、話し合える関係づくり」「子ども一人ひとりの気持ちや考えを受け止め、大切にすること」といった声も多く、「セルフチェックリスト」による振り返りにより、自らの保育の質をさらに高めていこうという思いになったという声も多かった。

「良くないと考えられるかかわり」を減らしていくために必要なこと

- 何気なく言ってしまう言葉掛けを意識して行ったり、同僚の不適切な関わりを本人に知らせていくことが必要だと思う。
- ほとんどの保育士が「子どものために」という思いで、関わりを持っている。良かれと思ったことが子どもにとってはマイナスになることもある。また、決めつけてしまったり、思い込んでしまうことも多い。そこに気がつくのは自分自身の振り返りも大切だが、職員同士のチェック機能も大切である。普段から気軽にその思いを伝えられる職場や人間関係が必要だと思う。
- 子ども一人一人の気持ちを尊重し、ゆったりと関わりたいと願っている保育士は沢山いると思う。しかし現実には、大勢の子どもを見ていて怪我や事故をさせないことを優先させると、気持ちに寄り添うことの難しさを感じる場面が多い。
- 自分の保育の振り返りや、研修に参加することによって、自分の保育の質を高めていきたい。
- 重なる業務、保護者の要求への対応、援助が必要な子どもの増加（自閉症、多動等）によって、「時間がない」というのが大きな問題だと思う。時間が無くなると、早くしなければという焦りが生まれて、それが保育に支障をきたしていると感じる。また、援助が必要な子どもも増加しているため、これまで通りの人数配置のままでは先に記したものと同じ焦りが生まれ、保育に支障を来たすだろう。円滑な業務、適切な保育をこなすためには、「人員の確保」が最も必要ではないか。
- 保育士間の話し合いや自分の保育を客観的にみるための研修等が必要。動画で自分達の保育を振り返ったことがあるが、保育を見つめ直すきっかけになった。

	<ul style="list-style-type: none">• 他の保育園へ数日実習のように入ったりしたら、その園の不適切さや自分が不適切な保育をしていると気づけると思う。• コロナ禍で嘱託職員で研修を受ける機会もなくなり、正職の先生が受けた研修報告を聞く機会もない。研修報告を閲覧出来るようになっているとは聞いたことはあるが、勤務時間内では難しい。ミーティングも正職だけ。短時間でも職員が集まって士気を高める機会を持ってもらえると保育を見直しお互いを知ろうと出来るのではないかと思う。
--	--

振り返りの結果を受けて

全国保育士会 会長 村松幹子

現場からの考察

この度の国による「保育所等における虐待等の不適切な保育への対応等に関する実態調査」では数字によってその現状が示されました。しかし、その数字では具体的なかかわりの内容が見えてきませんでした。何をもち「不適切な保育」というのかという基準がないなか、全国保育士会では、子どもの育ちを支える専門職団体として今回の国の調査を好機と捉え、よりよい保育を追求し、保育の質の向上を図る観点から、概ね共通の認識の下、改めて自分の保育を「人権擁護のためのセルフチェックリスト」の5つのカテゴリーに照らし合わせ、ていねいに振り返っていただきました。その結果がこれまで見てきたとおりです。

「良くないと考えられるかかわり」として回答があった記述を一つ一つ見ていくと回答された保育者が謙虚に自分の保育を振り返っていることが確認できます。このように、今回の振り返りが行われることで、日頃意識をせずに行っていることが実は子どもの人権にかかわる内容であったことを自覚することができたのではないかと思います。たとえば子どもを待たせてしまったことを振り返る回答がいくつかありますが、保育の中ではよくあることです。大事なことは、待たせることへの説明や、待たせたことに対して後で子どもに誠意をきちんと表しているのであれば、それは必ずしも「良くないと考えられるかかわり」には該当しないとも考えられます。

専門職として、子どもたちのために

今回の振り返りの結果からは、日常の保育のなかで、自分が行った保育を子どもにとって「良くないと考えられるかかわり」であったと気づき、反省する感性や、専門職として自ら振り返り、より良い関わりを考えようとする姿勢、つまり、専門性をさらに高め、子どもに寄り添うことを通して保育の質を向上させたいという保育者の思いが読み取れるのではないのでしょうか。

「良くないと考えるかかわり」と気づき、振り返った後に、改善に向けた対応やその結果、自らの保育に起こった変化にも言及していただきました。それらの記述からは保育者の都合による保育ではなく、常に子どもを主人公にした保育実践を心掛けている姿勢がうかがわれます。

虐待はあってはならないのは言うまでもないことです。国として保育所等における虐待等をどのように捉えるのかということや、「不適切」の意味するところについての考え方を明らかにして欲しいと思います。一方、この対応はどうなのだろうという不安の中で保育をすることで、保育者が委縮してしまったり、それは単に自分を守るための保育になってしまいます。保育所・認定こども園等においては、「子どもを尊重する保育」とはどのような保育

を言うのだらうということを保育者同士が語り合い、お互いの目指す保育を共有していったほしいと思います。

全国保育士会では、全国各地の保育者がこれからも常に自らの保育を振り返りながら、子どもをまんなかに考える保育に向けて、専門性を高めていけるよう、専門職団体として会員に寄り添いながら取り組みを行っていきたいと考えています。

適切な保育とは何かを組織全体で考える

関西大学 教授 山縣文治

不適切な保育を避けるために何よりも大切なことは、「誰でも、いつでも」起こす可能性があるという自覚を持つことです。「私は大丈夫」、「子ども（または保護者）との適切な関係ができあがっているから大丈夫」などの『自己過信』、「職員が少ないから仕方がない」、「厳しいしつけや基本のルールを守るために強制的な保育を行うのは園の方針である」などの『責任転嫁』、「してはいけないことは理解できるが、次のプログラムがあるから仕方がない」、「集団での保育であるからある程度は仕方がない」などの『問題意識の欠如』、などは最も避けなければなりません。

今回の振り返りを読ませていただくと、日頃の保育をさまざまな角度から省察しておられる様子がひしひしと伝わってきます。とりわけ、「物事を強要するようなかかわり・脅迫的な言葉がけ」や、「子ども一人ひとりの人格を尊重しないかかわり」に関する既述が多くみられました。

ご存じのように、虐待には身体的虐待、性的虐待、ネグレクト、心理（精神）的虐待の4つの類型があります。経験的に言うと、性的虐待、身体的虐待、ネグレクト、心理的虐待の順に、不適切な保育の内容に関する認識のズレが大きくなると感じています。逆に言うと、ネグレクトや心理的虐待、とりわけ心理的虐待については、具体的あるいは客観的な共通の境界線を定めることが難しいと感じています。「物事を強要するようなかかわり・脅迫的な言葉がけ」や、「子ども一人ひとりの人格を尊重しないかかわり」に関する記載が多いという結果は、このことと関係しているような気がします。

この点について、私たちはどのように考えればいいのでしょうか。「不適切な保育とは何か」ではなく、「適切な保育とは何か」を起点に考えてみたらどうかと私は考えています。

「不適切な保育とは何か」を起点にすると、ついつい「してはいけないこと」を考えたり探したりすることになりがちです。そうすると「してはいけないこと」リストが積み上がり、どんどん保育が窮屈になってしまいます。

一方、「適切な保育とは何か」を起点にすると、「していいこと、すべきこと」が蓄積され、保育が広がることになります。その上で、広げていく際に、「これは不適切ではないのか」という疑問をもつことで、保育の内容を点検できる可能性が高くなります。加えて、前段の発想だと、全面禁止・抑制という考え方になりがちですが、後者の場合、「なぜだめなのか」、「全くだめなのか、一定の条件下でだめなのか」などを考えることが可能になります。このような判断を、個人ではなく、チームあるいは組織全体で時々確認することが必要ではないかと考えます。

振り返りの結果

(全回答)

令和4年10月～12月の期間で、自分自身の保育を振り返って、良くないと考えられるかかわりを行ったことが「ある」と回答された内容

セルフチェックリストの カテゴリ	それはどのようなかかわりでしたか。	そのかかわりをした後、改善に向けてどのような対応を行いましたか。	その対応の結果、自らの保育にどのような変化が起きましたか。	保育現場において、「良くないと考えられるかかわり」を減らしていくためには、何が必要だと思いますか。
物事を強要するようなかかわり・脅迫的な言葉がけ	サンタさんが来ないかもと不安を与えた。	サンタさんがちゃんとプレゼント持ってきてくれることを、約束した。	子どもの気持ちや、夢を大切にしたい。	ゆったりした関わりが持てるよう保育士の、増員。
	節分前に「〇〇しないと鬼が来るかも」と言った。	「〇〇したら鬼をやっつけられるね」とプラスの声かけにした。	子どもにとって怖い気持ちが少し和らいだと思う。	
	偏食の強い園児に対し、「食べなきゃ鬼が来るよ」と声を掛けたことがある。	「～しなきゃ～する」ではなく、「～したら～できるよ」と、その先が楽しみになる言葉掛けを心掛けるように努めた。	「これ食べたら仮面ライダーになれるよ」などの前向きな言葉がけを心掛けたことで、子どもたちの「食べてみる」という気持ちが芽生えたのではないかと思う。	重なる業務、保護者の要求への対応、援助が必要な子どもの増加（自閉症、多動等）によって、「時間がない」というのが大きな問題だと思う。時間が無くなると、早くしなければという焦りが生まれて、それが保育に支障をきたしていると感じる。また、援助が必要な子どもも増加しているため、これまで通りの人数配置のままでは先に記したものと同じ焦りが生まれ、保育に支障を来たすだろう。円滑な業務、適切な保育をこなすためには、「人員の確保」が最も必要ではないか。
	クリスマスの時期になると、「サンタさんこないよ」と言ったり、節分の時期には「鬼くるよ」と言って言葉かけをしていた。	サンタさんが来ることを楽しみに待てるような、言葉かけをしていきたい。子どもの気持ちを考えた言葉かけをする。	節分では、鬼を怖がり泣く子がいなかった。子どもに優しく言葉かけをするようになった。	自分の保育の振り替りや、研修に参加することによって、自分の保育の質を高めていきたい。
	「帽子をかぶらないと、お外に行けないよ」と言ってしまう。	「～してから、一しよう」「先生と一緒にしよう」などと、言葉のかけ方を変える意識をした。	言葉の使い方をより考えるようになった。	その時々の子どもの思いや言葉を、その時にまず聞いて、受けとめること。
	「〇〇しないと〇〇できないよ」という言葉がけをしてしまった。	肯定的な言葉がけを意識した。	言葉がけをする際に、否定的な言葉ではないか考えてから声かけをするようになった。	
	部屋で走りまわっている子に鬼さんがお山から見てるよと言う。	鬼など怖いもので脅かせるような声かけではなく、違うことに誘ったり興味を向けられるようにした。	子どもたちの興味のあるものを工夫して考えるようになった。	保育士が一人ひとりの関わりを大切に、一言一言の言葉も考えながら対応できるような人数配置
	「これをやってからじゃないと次のことができないよ。」と声を掛けた。	言い方を考え、次に向かえるような言葉掛けを心がけた。	言葉掛けを意識して行うようになった。	何気なく言ってしまう言葉掛けを意識して行ったり、同僚の不適切な関わりを本人に知らせていくことが必要だと思う。
	集合を守らず遊んでいる子や片付けをしない子に、「お外に連れて行かない！」など。	遊びを始める前に時間を意識させ「長い針が○になったら片付けを始めようね」と伝えた。次にする楽しい活動をあらかじめ話しておいた。	子供が時計を見て声を掛け合うようになり、肯定的な発言を意識するようになった。	行事の見直しや人手不足の解消
	園行事が始まる際に、行動を促してもなかなか動かなかったりで、「早く行かないと始まっちゃうよ」「見れなくなっちゃうよ」と少し強要するような言葉がけをしてしまった。	行動を促す意味で使った言葉だが、強制する意味合いもあったと感じたので、「先生と一緒に見に行こうか」と誘いかけを行うようにした。またイベントの一部が分かる時はそれを見せたりして、本人の気持ちが向くように促した。	強制的に促すのではなく、まずは本人がなぜ動かないかを受け止め、本人が自ら動き出すような誘いかけをするように心掛けた。	ほとんどの保育士が「子どものために」という思いで、関わりを持っている。良かれと思ったことが子どもにとってはマイナスになることもある。また、決めつけてしまったり、思い込んでしまうことも多い。そこに気がつくのは自分自身の振り返りも大切だが、職員同士のチェック機能も大切である。普段から気軽にその思いを伝えられる職場や人間関係が必要だと思う。
野菜も食べれないとフルーツあげれないよ	頑張って食べたら給食先生嬉しいと思うよなどの声掛けにする	自分も嫌な気持ちにならずに子どもに伝えることができたと感じた	職員間同士で注意をしていくこと	
2歳児のトイレトレーニング中の男児に、散歩へ行く前は、トイレに行っからいきましょうと伝えるのが、「ない」と答えた。散歩の途中で行きなくなったり、失敗してはかわいそうだと思って、何度も行くように伝えた。	排尿のタイミングが合わなかった時は、無理なくオムツで出かけるようにした。パンツで行くか、オムツで行くか、子どもに尋ねるようにした。	散歩の前は、全員トイレに行かせなくてはならないという、思い込みがあったと気づいた。子どもの思いを受け入れて、失敗した時に対応できるように、準備をしているので、心配しすぎないようにしようと思えた。	この場面では、こうあるべきだと思いこんでいることも多いので、個々に合わせた臨機応変に対応すること、それを認めやすい環境づくりが大切だと思う。(園が色々なやり方があるのもいいという容認する雰囲気作り、それが可能な人員の確保など)	
年長のクラスで、行事への取り組みで、排泄の頻度が多い子どもにも、活動中にトイレに行かなくてもいいように活動前にトイレに行くよう促した。その子どもは尿意や便意がないと言っていたがその前回の活動で排泄が間に合わなかったことがあり、また日頃の活動中にトイレに行くことが目立つので、トイレに行くように言いその子どもはトイレに行った。尿意や便意がない子どもに対して行くまで促したことが強要にあたるかもしれないと考えた。	活動の準備を全員に声かけする際に「活動中にトイレに行かなくても良いように先にトイレに行くのもいいかもね」と子どもが自分でトイレに行った方がいいと思える声かけをするように心がけた。	トイレに限らず子どもが見通しを持って自分で気づけるような声かけを心がけるようになった。	子どもの一人ひとり気持ちや考えを受け止め、大切にすること。	

令和4年10月～12月の期間で、自分自身の保育を振り返って、良くないと考えられるかかわりを行ったことが「ある」と回答された内容

セルフチェックリストのカテゴリー	それほどよくなかかわりでしたか。	そのかかわりをした後、改善に向けてどのような対応を行いましたか。	その対応の結果、自らの保育にどのような変化が起きましたか。	保育現場において、「良くないと考えられるかかわり」を減らしていくためには、何が必要だと思いますか。
物事を強要するようなかかわり・脅迫的な言葉がけ	「出ないから、トイレに行かない」という2歳児に対して、出なくてもいいから皆と同じ時間にトイレに行こうと促した。	子ども一人一人の排尿の間隔や、その子が自分からトイレに行きたいと言えるかどうかによって変わるが、子ども個人のタイミングも尊重するようにした。戸外遊びや散歩など、すぐにトイレへ行けない活動の前は集団と同じタイミングでトイレに行くよう促している。保育室とは違い、漏らした場合の着替え、片付けなどに職員が1人取られると、遊んでいる他児をみる目が減ってしまうため、仕方ない面もあると思う。	可能な場合(人手が足りていて、その場から離れてもいい時などは)、個人個人の思いやタイミングに寄り添えることが少し増えた。	まずは配置基準の見直しをしてもらいたい。また、保育士が足りていても1部屋に子どもが多く集まっているより、2部屋に分けて保育士の目が全員に行き届く環境の方が「良くないかかわり」は減ると思う。子ども一人一人の気持ちを尊重し、ゆったりと関わりたいと願っている保育士は沢山いると思う。しかし現実には、大勢の子どもを見ていて怪我や事故をさせないことを優先させると、気持ちに寄り添うことの難しさを感じる場面が多い。
	トイレに行くよう促す	本人の意思がないときは後で声掛けをする		こども一人一人のことをよく考えて保育する
	自分でトイレに行ける子が、長い間行っていない時に、トイレに行くように言った。	気持ちが切り替わりやすいように、活動や遊びの合間に誘うようにした。		周囲で注意していく。
	尿意が言える子どもにトイレ行くよう促した。	子どもの尿意を尊重する。	子どもとの関係が良くなる。	言葉をかける前に一度考える。
	トイレに行かずに漏らしてしまう子なので、声掛けで、言った方がいいと促してしまっ	漏らしても大丈夫という気持ちを持ち、子どもの行きたい時に行けるようにした。	漏らしてしまうが、子どもとどうしたらいいか一緒に考えられるようになった。	子どもの立場になって、保育をしていく。
	遊びに夢中でトイレに行こうとしない2歳児の子ども(オムツにもたくさん出ている状態)に対し、トイレに行き、オムツを替えるよう促した。	遊びの間を見て、本児が行きやすいような声かけにした。	スムーズに自分たちで行くことが増えた	保育士も心の余裕が持てるよう、人手を増やす必要がある。
	寝れなくて落ち着かない子どもの布団を移動させた	大人が近くで寄り添うまたは起きて他の場所で遊んで過ごすようにしている	子どもに対しておだやかに関われる	職員間の連携、助け合い、困ったことがあった時に相談できる環境
	午睡時に眠れず話をしたり、寝ている人の睡眠を妨害するような行為があった際に、何度か注意しても続いた場合に布団の場所を変えた。	諭すような話かけかたをするようにし、午睡時間の過ごし方を理解してもらえるようにしていた。	分かりやすく伝えれば子供に伝わるのだという思いがより出てきた。	保育者の忍耐力、器の大きさ
	なかなか寝ない子どもの布団を他の子どもと離して敷いた。	布団を敷く場所を固定し、安定して睡眠できるようにした。	午睡時に子どもに話さないように注意することがなくなり、周りの子どももゆっくり寝られるようになった。	その都度対応の意図を報告し合い、改善できるところを見つけて改善すること。
	(嫌いなものだけど)「一口だけ頑張ってみて」と強要してしまった。	子どもが自発的に行動できるよう言葉を選ぶようにした。	この子どもが理解できる言い方や言葉を選ぶようになった。	自身の言葉の引き出し、言葉の言い回し方を増やす。
	子どもが苦手な食べ物があった一度首を振ったため、別のものを食べられるようにしたが、一口食べて欲しい思いもあり、何度か食べてみる？と促した最終的に食べずに終わったが、その子からしたら一度嫌と言ったものを促すこと自体嫌だっただろうなと思い反省した	子どもが幸せに食事を終えられるようにするために、苦手なものはその子の意思を尊重して、食事をすすめるようにしている	子どもが苦手なものを食べなくても、いつかは食べられるようになる、大丈夫味覚が発達してきたんだなこの子の意思を大事にしてあげたいと思いつつ保育をしている。子どもたちも満足そうな表情で食事を終えている。	保育士間の話し合いや自分の保育を客観的にみるための研修等が必要。動画で自分達の保育を振り返ったことがあるが、保育を見つめ直すきっかけになった。
	園庭遊びから入室する際、なかなか遊びを切り上げられない子に対して抱き上げて遊びを終わらせてしまった。	他のクラスの保育者が園庭にいる場合は、しばらく見守りをお願いする。	入室を促す際の言葉かけの工夫や、担任間で相談をして、自分でダメなら他の保育者に頼る。	クラス担任以外にサポートしてくれ保育者がいること。それぞれの保育者の力量はもちろん子どもとの相性もあるので、自分には難しいと思った子を担任間で伝え合い、困った時は任せられる関係作りをしておく。
	物事の切り替えが出来ない子に強制的に終わらせた	前向きな言葉を掛けて見通しを持てるように声掛けをするようにした	それで切り替えられることもあれば、難しいこともある。	保育士の配置基準の見直し
	クラス全員での活動の後、話を聞かずに走り回り、お面を投げた子に対して大きい声で注意をしてしまった。	その後、自分の声掛けを振り返り、違う伝え方をすればよかったと反省した。伝えたいことがある場合は、場所を変えたり、その子と1対1の空間で大きい声ではなく、～をするのは悲しいよと気持ちを含めて伝えるように意識をしている。	子どもたちに対して穏やかな気持ちで関わるように変化した。自分の声をよく聞くようになり、声の大きさは適切か、この言葉を使ったら子どもはどう思うかをより考えるようになった。	子ども一人一人の姿、性格を捉え、子ども理解を深めていくこと。園全体で大切にしていきたいことや保育観を時々話し合っって意識の統一をしたり、職員会議等で自分の保育を振り返る時間を設けること。
	子どもが室内で走っていた時に「ダメ！」と大声で言ってしまった。	声だけではなく、その子どもの側に行って伝えるように意識した。	その子どもが理解できる言い方や言葉を選ぶようになった。	自身での学びや、セルフチェックでの振り返りが必要だと感じます。
	自分がイライラしてしまって「もう！」と、強い口調で言ってしまった。	イライラした時は、自分自身一呼吸おいて、関わられるように落ち着かせた。	気持ちにゆとりが持てるようになった。	自身の気持ちのゆとり。その為の日頃からの生活習慣とセルフケア。
	「靴下はいて、靴をはくよ」と、強制してしまう。	言葉のかけ方を変える意識をした。「～してから、～しよう」「先生と一緒に～しよう」	言葉の使い方をより考えるようになった。	その時々の子どもの思いや言葉を、その時にまず聞いて、受けとめることが必要だと感じる。
	「早く来て!」「急いで!」と自分の都合でせかしてしまっ	クラス内で一日の時間配分を話し合った。	子どもの動きが若干ではあるが、スムーズになってきたように感じる。	職員相互の伝え合い。自身の学び、セルフチェックの振り返り。
	並ぶ時に腕を掴んで誘導する	声かけをした後、背中にてを添える	子どもの立場で考える	保育士の心と体のゆとり 責任や業務に対してのストレスが多い

令和4年10月～12月の期間で、自分自身の保育を振り返って、良くないと考えられるかかわりを行ったことが「ある」と回答された内容

セルフチェックリストのカテゴリー	それほどよくなかかわりでしたか。	そのかかわりした後、改善に向けてどのような対応を行いましたか。	その対応の結果、自らの保育にどのような変化が起きましたか。	保育現場において、「良くないと考えられるかかわり」を減らしていくためには、何が必要だと思いますか。
物事を強要するようなかかわり・脅迫的な言葉がけ	子どもに危険を感じた時にとっさに身体を引き寄せたり大きな声をだしたりした。	怪我をする事、危ない事をわかりやすい言葉ではなした後怪我しなくて良かった事を伝え抱きしめた。	子ども達が安全に過ごせるよう視野の範囲を広めた。 なるべく大きな声を出さずに自分がその場行くようにこころがけるようにした。	親も全て園まかせではなく、しっかりと親の責任を持って子育てしていく中で、園と家庭と協力しやって良い事、悪いこと、危険なことなどをしっかり子どもに伝え教えていく事が大事だと思う。
	散歩中、道路を歩いている時に声をかけたが、気づいていない様子であったため、身体を少し押ししてしまった。	言葉をかけることをまず行い、気づいていない様子であった時には、近くに行き目線をあわせて子どもの体は押さずに対応する。	子どもたちの一人ひとりと丁寧に関わりながら子どもの安全も守ることができた。	状況を把握して、その時に考えついたことをすぐに言動に移さず、一つ一つの出来事ごとに正しい関わりを考える。
	描画の時に、表現や描き方を誘導しすぎてしまった。	子どもが自発的に行動できるような言葉を選ぶようにした。	その子どもが理解できる言い方や言葉を選ぶようになった。	その時々の子どもの思いや言葉を、その時にまず聞いて、受け止めること。
	塗り絵をしたいと子供から言ってきた時に違うことが関わっていてちょっと待っててねと声をかけた	いまこれしてるから、これが終わってからでもいい？と放置せずに聞くようにした	しっかりと子供と向き合っていて関わることができた	保育士どうしの話し合い
	クリスマスの話をしている時に、「ブラックサンタがいるって知ってる？」と言ってブラックサンタがどんな人なのか話した。	次年度からその話はしないようにする。	まだ分からない。	保育士間でお互いに良いことも悪いことも伝え合う関係作り。
	話を聞いてくれない子どもに「話を聞けないなら、赤ちゃん組にいく？」と言ってしまったことがある。	「赤ちゃんクラスにいく？」言った後罪悪感があったので、それを使わずに済む声掛けを考えるようになった。	「赤ちゃん組」の言葉を使わない声掛けを考えるようになった。自分の思いと反対のことをする子どもたちに「どうしたいの??」と聞いたり、言動の背後にあるものはなにか考えたりするようになった。	職員も余裕がなくなるとときに不適切な言葉を使ってしまうこともあると思う。子どもに対して保育士の配置基準を見直してほしい。
	夕方、異年齢が混じって外遊びをしていて、時間になり「〇組さん、お片付けをしておへやにはいりましょう。」とこえをかけ、いつまでも遊んで部屋に入らない子にたいして、「みんなはいったよ。いつまでもするのは、赤ちゃんぐみの部屋にいてね。」「お片付けできなかつたら、あしたはつかわなくてね。」とこえかけをしてしまった。	子供の、おおきくなりたい、赤ちゃんにはなりたくないというきもちをくすぐるのではなく、なぜ、遊びを区切れないのか、部屋に入らない理由が何か、考えるよう努力している。	小さいクラスにいったらいいよ。ではなく、お部屋でたのしいことしよ。みんなが待ってるから急ごう。と、次の遊びやすことを、はっきりと、わかるように言葉がけするようにかわってきた。	困った感を持つるために、集団行動からはずれたり、保育士が、全体を動かすときの最後に残った子をサポートするといった、人員がほしい。
罰を与える・乱暴なかかわり	トイレに何回も行き過ぎる子どもに「また行くの？ほんとに出る？」といていた。	子どもが次の活動に楽しみが持てるような言葉のかけ方考えるようにした。	子どもの反応を待てるようになってきた。	自身での学びやセルフチェックでの振り返り。
	「ちゃんと練習してた？練習しないと、出来るようにならないよ」と言ってしまった。	子どもが自発的に行動できるような言葉を選ぶようにした。	言葉の使い方をより考えるようになり、その子どもが理解できる言い方や言葉を選ぶようになった。	自身の言葉の引き出し、言葉の言い回し方を増やすこと。自身の気持ちのゆとり。
	子どもの手を引っ張る	出来るだけ言葉だけをして子どもを集める	言葉の掛け方が違うようになった	他の保育者との連携 自分の保育を見直すこと
	子どもの腕を引っ張る	移動して欲しい場所を言葉で伝えた。子どもが自分で動くのを待つ。	他の場面でも子どもが自分でしようとするまで待つように意識するようになった。	保育士一人ひとりが子どもとの関わりを振り返っていく。保育士の人数を増やして、余裕を持った関わりができる環境をつくる。
	並ぶ時に、強引に腕を引っ張ってしまった。	イライラしたときは、一呼吸おいてリセットするように意識した。	以前より柔かい対応が出来るようになった。	自分の気持ちのゆとり。その為には、規則正しい生活とセルフケア。
	子どもが友だちを押し倒しそうな姿があった時に後ろから腕を引っ張り、止めてしまった	友だちを押し倒す子どもは決まった子どもであるので、押し倒そうとする行動がないよう、その子どもと関わってあそんだり、そんな姿があった時には子ども同士の間に入るようにした		心に余裕をもって保育をすること 乳児の保育士1人に対しての子ども的人数を調整する
	噛みつきや引っ掻きなどのトラブルが起りそうになった時、子ども同士を離そうと思い咄嗟に子どもの腕を引っ張ってしまった。	子どもの姿から子どもの行動の予測をし側に付くことで、未然に防げるようにしていった	噛みつきや引っ掻きなど防げる回数は増えたが、その子ばかりに気を取られ、他の子との関わりが少なくなってしまう。	自分1人でなんとかしようせず、他の職員に声をかけたり、助けを求めることが大切だと思う。
	寝かしつける時になかなか寝ないために、ちょっとトントンに力がいってしまった。	クラス内で気付きをつたえあった	以前より柔かい対応が出来るようになった	職員相互の伝え合い
	話を聞かないなら部屋から出てと言う	どうして話を聞かないのか考え、その子が集中して話を聞ける環境にした	無理強いをしたり脅すような言葉がけをしなくなった	保育士自身の気持ちの余裕や保育士同士がお互いに保育について話し合える環境
	「片付けできないなら、お外に行かれないよ」と言ってしまった。	言葉のかけ方を変える意識をした。「～してから、～しよう」「先生と一緒に～しよう」	子どもの反応を待てるようになってきた。	研修などでの学び。セルフチェックでの振り返り
午睡中、隣の子と話して落ち着いて寝れなかったため、布団の場所を移動した。	頭の向きを変える。配置を変える。寝る前に、かっこよくなれるかな？など、プラスの声かけをする。		保育士の意識の改善。 同僚同士の良い関係づくり 受け持ち人数や、保育士の配置の人数の見直し 気分をリフレッシュできるための休憩時間の確保	

令和4年10月～12月の期間で、自分自身の保育を振り返って、良くないと考えられるかかわりを行ったことが「ある」と回答された内容

セルフチェックリストのカテゴリー	それはどのようなかかわりでしたか。	そのかかわりをした後、改善に向けてどのような対応を行いましたか。	その対応の結果、自らの保育にどのような変化が起きましたか。	保育現場において、「良くないと考えられるかかわり」を減らしていくためには、何が必要だと思いますか。
子ども一人ひとりの人格を尊重しないかかわり	つい、私の望む場所に来て欲しいと思い、腕を引いてしまった。	直後、反省した。	自分主体の保育から子どもの主体性を尊重すべきだと再認識した。	子どもが今、何を望んでいるかを思うこと
	うんちが出ていたりおしっこが大量にでているのにパンツを替えるのを嫌がる子を抱っこし、トイレへ連れて行った。	理由を子どもにきちんと話して関わった。	子どもの行動を、待つことを大切にした。	保育士の人数を見直してほしい。1歳児の1対6は、難しいと思う。人数が多ければいいということではないが、丁寧に保育してあげたいのに保育士が少なく、日々、慌ただしいことが多い。保育士の心に余裕が欲しい。勤務体制、休みが取りやすいことなど。
	支援が少し必要な子に対して手を引っ張りながら無理やり目的場所に誘導させる	手で誘導する前に「こっちだよ」などその子に一声掛ける。	子どもからの信頼感が増え、子どもの方から手を繋いでくれるようになった。	保育士同士の話し合い。子どもの対応など難しいこと、わからないことがあったらすぐに相談できる環境づくりを行う。
	トイレから部屋に戻ったときに遊びに行こうとしてしまい、手を洗おうと誘いながら体の向きを変えてしまった。	咄嗟の行動であっても、まずは落ち着いてその子が気づきやすいように体に触れて声を掛けたりジェスチャーで示すようにしている。	子どもの意思で行動出来ることを大切に、個々への対応をいま一度よく考えるよう意識している。	自分自身が子どもとの関わりで悩んだり、難しいと感じたことは周りの職員に打ち明け、対応をいっしょに考えてもらったりアドバイスをもらっていく。
	おもちゃの取り合いになりそうだった為、こっちにもあるよと声掛けしながらだが、手を引っ張った。	使いたいんだよね、と気持ちを共感しながら、近くまで同じおもちゃを持ってきて提示したり、手を引っ張るのではなく、指さして伝えたりした。	どうすれば子どもに伝わるだろうとよく考えるようになった。	他の保育園へ数日実習のように入ったりしたら、その園の不適切さや自分が不適切な保育をしていると気づけると思う。また、不適切な保育をしている場合、こうしましょう。というあんが欲しい。すると、適切な保育をすと思う。
	折り紙を説明書通りに折るのではなくて、子どもが考えた折り方で「〇〇作りたい」といった言葉に対して、過去のその子どもの遊び方からくしゃくしゃにして大切に使わない可能性を考えてしまい、「何を折るのか決めてからだよ」と制限してしまった。	月齢や年齢も考え、まずは任せてみようと思いき直し、「作ってみてごらん。出来たら先生にも見せて欲しいな。」と伝えた。また、その子どもにも注目しながらも周りを見渡せるように自身の座る位置や立ち位置を変えるようにした。	任せてみると自分でイメージした物をよく表現して作ることができており、「うまくいかなかったから捨てる」といった姿はもうその子には無かった。まずは任せてみる事でその子の成長を伸ばすことも成長に気づくこともできないのだと感じた。また、そこからセロハンテープでくっつけたり、ストローで固定するなど、どんどん子どもの創作意欲を高める関わりをすることができた。また、座り位置などを工夫する事で子どもに付きながらも保育室全体に視線を配ることもできた。また、特定の子どもに付いているときは他の職員が全体への意識を強くすることで安心して関わる事ができた。	職員と子どもの人数のバランスの調節 定期的な自己採点 担任同士で良くないと考えられる関わりについて話し合える関係性→担任同士で話すと連携に繋がる
	床に寝転んで自慰行為をしている子に、「友だちに踏まれちゃうよ」「眠いの？」と行為を否定的に伝えた。	ちょうど乳幼児期の性教育の研修を受ける機会があり、寝転んで遊びながらの自慰行為が始まった時は、部屋の隅に置いておいて、一人の空間を作ってあげる。	自慰行為への嫌悪感がなくなり、こまめにやめさせるよりも、子ども自身でキリをつけてまた遊びに加わる姿を見て、自慰行為を受け止められるようになった。	今回は研修を受けて自分の考えを改める機会が出来たが、コロナ禍で嘱託職員で研修を受ける機会もなくなり、正職の先生が受けた研修報告を聞く機会もない。研修報告を閲覧出来るようになっていたとは聞いたことはあるが、勤務時間内では難しい。ミーティングも正職だけ。短時間でも職員が集まって士気を高める機会を持ってもらえると保育を見直しお互いを知ろうと出来るのではないと思う。
	午睡の時、おしゃべりをするこの場所を変えた 濡れているオムツの交換を嫌がる子どもに、「着替え手伝うね」と伝え、着替えをした	変えないようにしていく 子どもの同意を得てから、着替えを手伝う行うように心がけている	時間をかけこどもに接していく	こどもへの愛情 人権擁護のチェックを定期的に行うこと 現状の保育に慣れずに、常に自らの保育が不適切でないか反省すること
	排便を子どもの意見を聞かずに促す	子どもの意見を聞くようにした	子どもの意思を大切にできるようにできた	意識を一人一人が高く持つことが必要
	散歩や長い活動前に排泄を済ませるように伝えた 毎日一緒に過ごしていて、一人ひとりの食べられる量、体調など把握しているので食事の量をこちらで調節したり、遊び食べを繰り返している子のスプーンを後で配膳したりした。	言い方を考える 子どもにも聞くようにしている。	特に変わりはない 変化は起きていない。	環境の改善と制度の改善 子ども一人ひとりの成長に何が大切かを常に考える事。
排泄の失敗での対応で、掃除道具を取りに行ったり、床を拭いたりしている間、子どもをそのままの状態ですまされた。	パーテーションを用意し、人目につかないようにした。	子どもの人権を守ることをより意識するようになった。	何がよくない関わりかを理解し、定期的に自分の保育を振り返ること。また、職員同士で保育について語り合える環境や人間関係が必要であると感じる。	
子ども一人ひとりの人格を尊重しないかかわり	発表会の衣装を着せて遊戯を踊る事があたりまえだと思っていた。乾燥肌の子は、サテン生地の衣装が肌と擦れて痒くなる事は考えていなかった。	肌が当たる部分をフェルトやタオルで、直接当たらないようにした。	自分の価値観だけで無く、子どもの気持ちを考えた衣装などを考えて作っていきたい。	子ども一人一人の気持ちを汲み取り、寄り添いながら共に成長したり、生活を送る事。

令和4年10月～12月の期間で、自分自身の保育を振り返って、良くないと考えられるかかわりを行ったことが「ある」と回答された内容

セルフチェックリストのカテゴリー	それはどのようなかかわりでしたか。	そのかかわりをした後、改善に向けてどのような対応を行いましたか。	その対応の結果、自らの保育にどのような変化が起きましたか。	保育現場において、「良くないと考えられるかかわり」を減らしていくためには、何が必要だと思いますか。
	絵本を読んでも持ってきたが、待ってと子どもを待たした。	すぐに読んであげた。	子どもを待たせない保育。	ゆったりしたかかわりをする。
	泣いている子どもに関わっている時に、遊ぼうと声をかけてきた子どもに対して、今は遊べないから後でねと伝えたが、その子どもが先に降園したことで、伝えたことを実行できなかった。	泣いている子どもを慰めながらも、話しかけてきた子どもの話を良く聞いて、関わるようにした。また、その場で伝えられない時はその後すぐに話しかけるようにした。	子どもが話しかけてきたら、すぐに応えるように意識できるようになっている。	保育所全体の協体制や、情報共有。
	話しかけられた際に「今〇〇ちゃんと話してるから待って」と言った。	話が終わってから「さっきは何の話だった？」と聞いた。	できるだけ具体的に伝える（「〇〇ちゃんとの話終わったら聞くね」）ことで、子どもの話したい気持ちをより大切に考えられるようになった。	保育者の人権に対する意識を上げること 余裕をもって保育ができる環境
	忙しいからあとでなど 忙しくかったので声かけに少し待ってと答えた	自分がいわれたらどんな気持ちと反省する 直ぐに子どもの所に行き話を聞き問題を解決した	努めて寄り添うにする 子どもとの関係は良好である	人材、時間、気持ちの余つ 保育士の配置基準の見直し。仕事量を考えてもゆとりある保育は難しい
	子どもが保育者に話しかけた時に、「ちょっと待ってね」と言い、その後子どもの話を聞くことを忘れる。	出来るだけその場で話を傾ける。その場で聞くことが出来ない時は、保育者は今対応していることがあること、誰かと話しているから聞けないことを伝え、終わったら聞くことを伝え、忘れないように聞く。	子どもの話したい、伝えたい気持ちをその時に聞きその場の状況に合ったやりとりや子どもとの話が広がった。	自身の言動の振り返りを話せる環境。気になることはその時に相談。
	自分が保育の準備をしていたり、他の子どもの対応をしている時、ちょっと待ってね、あとでね。と待たせた。	自分が今応じられない理由を伝えて待ってもらうようにした。 話を聞くときに待ってくれたことの感謝を伝えるようにした。	子どもが、怒らず待ってくれるようになったが。 本当は聞いて欲しいのはその時なのだから、子どもは満足していないかも。と思うところがある。	・平常心で対応できるように。 ・幾つになっても学びを惜しまない。 ・今はどちらかと言うと、保育士の立場になった話が少ないと思う。 ・一人ひとり違う性格の子どもたちに接する仕事が、どんなに大変か。 ・保育現場での子どもたちの現状が性格にわかっているのか。 ・保育時間の見直し（お休みの時の早めのお迎えのお願いやきちんとした就労のみの土曜保育利用）
	1人の子どもの対応をしているとき(話を聞いていたり、おもらし後の片付け中など)や保護者対応しているとき、給食準備をしているときなどに他の子どもに話かけられたとき「ちょっと待ってね」「あとでね」と答えることがあります。	できるだけ、その用事が終わると「さっきの話は何だった？」と声をかけ時間をとるようにしています。	特に変化はないと思います。	保育士の数を増やすと余裕が出てくる場面もあると思います。
	子供の問いかけに、ちょっとまってねと言う	自分がしている事を後回しにする		子供の気持ちを理解し、尊重するようにする。また、大人の都合に合わせない保育をしていくようにする。
差別的なかわり	他の子は自分で眠りにつくことができることが多く、出来るだけ自己入眠を促しているため寝付きにくい子についてトントンしたり、近くについたりすることが多かった。	自分で眠れる子も必要なときは近くについて眠る事だけでなく安心感を与えられるようにした。	自分で眠れる子を寝かしつけたからといって、自己入眠ができなくなるわけではなく、安心感を持てることにつながると分かった。	保育士同士が普段から気さくに話し合えるような人間関係を持つことで新人の人も関わり方などを相談したり、困ったときの関わり方を知ったりすることができる。
	男の子と女の子に分かれた行動に「男の子やけん、できんよね」と言葉をかけてしまった。	研修で、男の子・女の子と分かれる事は差別につながるから、男女混合の活動をしていくようになった。	男女混合の活動をするにより、助け合って活動する場面も見られるようになった。	研修に参加し、自分の保育を見直す機会を持ちたい。また、先輩や同僚とも話し合いをする時間を待ち、良くないと考えられる関わりを自分がしていないか保育をみてもらう。
一人ひとりの子どもの育ちや家庭環境を考慮しないかわり	食事をこぼした時に「またこぼしちゃったの」と、言ってしまった。	子どもとの関わりを増やして、一人一人の発達理解を深めた。	その子どもが理解できる言い方や言葉を選ぶようになった。	自身での学びや、セルフチェックでの振り返り。
	自分でボタンを留めようとしていたのに、代わりに留めてしまった。	子どもとの関わりを増やして、一人一人の発達理解を深めた。クラス内で気付きを伝え合った。	子どもの反応を待てるようになってきた。保育の流れや時間配分について、クラス内でよく話し合えるようになった。	職員相互の伝え合いが必要。また、自身の言葉の引き出し、言葉の言い回し方を増やすことも大切だと感じる。
	子どもが自分で荷物を持って行こうとしていたが、急いでいた為「先生が持つね」と取ってしまった。	クラス内で気付きを伝え合い、1日の時間配分などを話し合った。	子どもの反応を待つゆとりが持てるようになってきた。	自身の気持ちのゆとり。その為には、規則正しい生活とセルフケア。職員相互の伝え合いも必要。

保育現場において「良くないと考えられる関わり」を減らしていくためには何が必要か
(令和4年10月～12月の期間で、自分自身の保育を振り返って、良くないと考えられるかかわりを行ったことが「ない」と回答した保育者)

保育現場において、「良くないと考えられるかかわり」を減らしていくためには、何が必要だと思いますか。

クラス担任任せでなく、いいところを褒める、又は困った時には相談にのるなど、管理職や、上司など、日々の保育から複数の目が行き届いている保育室であることで、クラス担任が楽しくやる気の出る気持ちが持てるのが大切。

保育士の心の余裕

担任の数を臨機応変に増やしていく。配慮のいる子供が多いクラス等、加配以外に1人増やす等

保育者自身の気持ちや時間の余裕。

不適切な言動があった時や、失敗をしたり悩んでいる時、言葉をかけあえる職場の環境。

風通しがいい職員の繋がり 風通しがいい職員と保護者の関係性

互いに気づいた点ことを指摘し合う。

・みんなで協力出来るように日頃からコミュニケーションをとる。

・国で保育士の給料を上げてもらいお給料をたくさんもらっているんだからちゃんとやらないといけないと自覚を持たす。

・研修をたくさん受ける。

人員不足や足りていてもギリギリの人数の時ではゆったりと関わりたくても中々一人一人にしっかりとハナマルで満足いくまで出来ないことがある。

今の配置基準は一斉保育時代の配置だと思うので、必要な保育士の人数を見直し増やすことで心にゆとりを持って子どもと関わっていけると感じる。

・保育士の充実。

・上司の保育活動への正しい理解。

・若手保育士の育成。

・自己肯定感の理解。やりたいことを自由にさせることとは違うと思う。そしたら保育士は必要ないと思う。

・保育士のスキルアップ。

職員の気持ちの余裕（時間、人員、プライベート）

第三者の目

園長やリーダーの意識向上と学び

養成との連携

魅力ある職場づくり

園内での振り返りと意識統一

職員の関係性の把握と個別対応

職場風土の醸成

保育士も人間なので、イライラしたり調子が悪い時もあると思う。今日は良くない関わりをしてしまいそうだと感じたときは、他の保育士に思いを伝えることで、少し子どもと距離を取ることがあってもいいのではないかと思う。他の保育士と思いを伝え合える関係作りを行い、先輩後輩に限らず職場環境を改善することで、良くない関わりは減っていくのではないかと思う。

子どもに対する保育士の人数（割合）を増やし、心に余裕を持って保育する

休憩時間をしっかりと確保し、ノンコンタクトタイムをつくる

新人保育士が悩みを話し合える場を作る

園内研修で不適切な保育の例を挙げながら、どうすることが適切なのか考えて行く

第三者の目を入れ、保育所が閉鎖的な空間にならないようにする（事業者が入る部分を作る）

身体的、精神的に健康で心に余裕を持ち、良い環境、良い保育者の中で楽しく仕事する事が必要だと思います。

現場の人員を増やす、保育士の業務を減らし、ストレスが減るようにする、人権学習を再確認する。

・子どもへの関わり方に関する研修

・保育者のメンタルヘルスケア

・保育者の業務の見直し

・保育者への公平で公正な人事評価制度

周りの職員とのコミュニケーションを密に図りながら、子供のことを十分に話し合い、望ましい関わり方はどうあるべきか、気付くようにすること。自己評価を定期的に行うこと。など

国の定めた保育士が変われば職員を増やせて配置できるなど思う。

・こどもたち1人ひとりの家庭環境や思いなど行動の背景を考え、理解しようとする。

・職員間でこどもたちへの関わりや仕事の悩みを相談し合える関係づくり

・こどもたちは思い通りにはいかないことを理解して受け止め、言葉かけなど違うアプローチを探したり、できていることにも目を向けていく。

いろんな場面での子供の気持ちをしっかりと受け止めていきながら、言葉をかけたなら様子を見まもっていきながら、大切な事を伝えられるようにしていく事が大切なのではないかと、思う

このようなアンケートを定期的に行っていく

お互いに保育のようすを、見あって、よいところ、よくないところ（改善した方がよいところ）を話し合ったりする機会をおおくもつようにする。研修の時間もとれるように、人を配置できるようにする。

人員の配置が余裕のもてるようにする、ことが必要とおもいます。

保育現場において「良くないと考えられる関わり」を減らしていくためには何が必要か
(令和4年10月～12月の期間で、自分自身の保育を振り返って、良くないと考えられるかかわりを行ったことが「ない」と回答した保育者)

保育現場において、「良くないと考えられるかかわり」を減らしていくためには、何が必要だと思いますか。

○保育者が余裕を持って 仕事に取り組む
○関わる人...園児・保護者・保育者
みんな同じように 「逆の立場だったら」という気持ち・意識を持ち関わる
○「初心忘るべからず」
○職員が心身共に リフレッシュできる時間・環境を備える→心の隙間を作れる時間・人、話を愚痴聞いてくれる人、わかってくれる人がいることを知らせる
定期的に保育を見直す機会をもつための話し合いやアンケートなどを行う
定期的にアンケートとして、常に意識付けをして、自分に対しても、他者がしている言動に対しても、疑問に感じたら、上司に相談できる環境をつくる。
よくないと思われる事をした時に皆で注意出来る環境作り
保育士の人員確保心にも身体的にも余裕のある環境
よくないとされる事の認識の再確認リスト作成
保育意識の向上と振り返りを常にすることや
保育士間の連携、言葉かけや思いやりが必要だと思います。
良いと考えられるかかわりの事例やポイント等を学ぶ園内・園外研修の実施、保育者の人数や時間など、心に余裕を持てる保育環境
情報共有や日頃からの職員間や子どもたちとのコミュニケーション
間違いと思ったことを見て見ぬふりしないこと。
こどもの気持ちを一番に優先して保育をする。人手が足りなくて、じっくりと関われない時があるので、余裕のある人員が必要だと思う。
保育士の仕事が多すぎて ストレスがたまりやすいのが実情。ゆとりある保育ができるように
保育士の人数確保 行事の見直し 賃金の値上げ
休み時間や有休の取得ができることが必要。
人間的、時間的なゆとりと、何でも言い合えるいい意味でのチームワーク
職員全体が、子どもの最前の利益を理解し、子どもの人権をしっかりと守っていくということを意識しながら保育していくこと。
現在している人権擁護セルフチェックリストを今後も継続的に行うとともに、1人1人の子ども達に愛情を持って関わるのが大切だと考えます。また、職員間の連携やチームワークを大切にしながら、働きやすい環境を整えていくことでより質の高い保育を行うことができると思います。
職員間の良い人間関係が必要だと感じる。
上司、部下関係なくお互いの保育に対して言い合える関係性ができたら良いと思う。
職員の増員で、余裕のある保育環境が整うことが必要。
業務の削減で、プライベートと仕事の切り替えができるような業務内容になると良いと考える。
保育士の確保、また子ども1人1人に対応できる部屋や専門的分野の職員の確保、保育士、保護者ともに同じ研修を受ける事で話しやすやがうまれたり、意識が少しでも近づくように思う。
保育士中心で考えるのではなく、子どもが最優先ということを常に考えて保育を行うということを意識すること
子どもたちの成長を見守り思いやりをもって一人一人に声かけをしていく。
保育士の心にも余裕ができるよう、保育士の業務の軽減、話し合いや自分の意見を言いたしやすい雰囲気が必要だと思った。
どの関わりが子どもにとって良くないか全職員で話し合いをしたり、振り返る時間を作ったりが必要。
心の余裕、リフレッシュ
保育士間での認識の共有。 もう少し保育士の数に余裕があれば、心にゆとりを持ち、子ども達と関われると思います。
保育士が余裕を持って保育できる環境（職員体制の整備）
子どもの人権について、定期的な園内研修
日々の保育を園全体やクラス担任間で振り返る体制を整える
人員を増やして保育者が余裕を持って関わられるようにしていくこと
日頃の振り返りをこまめにしていく中で良い点も改善点も話、言いやすい環境を作っていく。

全国保育士会事務局

〒100-8980 東京都千代田区霞が関 3-3-2 新霞が関ビル

社会福祉法人全国社会福祉協議会児童福祉部内

TEL : 03-3581-6503 FAX : 03-3581-6509

ホームページ : <https://www.z-hoikushikai.com/>

